

「残そう自然・守ろう私たちの未来のために」 ～リーブノートレイスに学ぶ～

主催：長浜東ロータリークラブ

後援：長浜市教育委員会

協力：滋賀文教短期大学

講師：林健児郎（LNTマスターエデュケーター／大阪YMCA）

松本秀章（LNTトレーナー／滋賀文教短期大学）

イベントの一部と本校の生徒の活躍を紹介します。まず、これから学ぶ児童たちの緊張を和らげ、元気よく活動できるよう、アイスブレイクを行いました。「フルーツバスケット」と「言うこと一緒、やること逆」というレクリエーションです。児童と大きな声で笑いながら、楽しく遊びました。

その後、いよいよ環境学習です。

LNTは、すべてのテクニックが、7つの原則を基にしており、誰にでもわかりやすく、楽しく実践することができます。滋賀文教短期大学の学生が、「原則4 見たものはそのままに」を児童に教えるために、学校での遠足をテーマにしたワークショップを行ってくれました。

グループごとに遠足に出かけたところ、綺麗なお花畑に遭遇します。あまりに綺麗なお花なので、みんながそのお花を持って帰ってしまいます。その後のグループがどうなったか、、、。

実際に体験し、その時の気持ちをリアルに感じてもらいます。

「見たものはそのままに」という環境配慮の気持ちが、自然環境のみならず、アウトドアを楽しもうとする人に対しても、優しい結果を生むことに気づいてもらいました。

その後、琵琶湖畔に移動して、「原則3 ゴミの適切な処理」をテーマにした「ライフ・オブ・トラッシュ（ゴミの一生）」というワークショップを体験しました。こちらは、LNTマスターエデュケーターの林先生（大阪YMCA）と、LNTトレーナーの松本先生（滋賀文教短大）から学びました。

はじめに、グループごとに琵琶湖畔のゴミを拾います。一見キレイに見えてもいろいろなゴミが落ちていますので、短時間で結構たくさんゴミを取集しました。

次に、拾ったゴミをおおよその素材ごとに分類します。児童と本校の生徒が考えながら、様々なゴミを分類しました。

そして、それらのゴミが分解されるのに何年ぐらい時間が必要なのか考え、それを可視化します。可視化は、一本のロープを時間軸に見立て、ゴミを並べ変えました。

最後に滋賀文教短期大学の学生から答えを聞き、答え合わせです。児童も本校の生徒も、ゴミが分解され消えるまでに必要な時間を聞いてビックリしました。例えば、毎日手にするペットボトルを、もしゴミ箱でなく地面に捨ててしまったら、、、、それを誰も拾うことなく放置されたとすると、分解されるのは約500年後です。戦国時代に捨てたペットボトルが、令和の今になってやっと姿が消えるということです。この事実を知ってもらうことで、ゴミを出さないという気持ちも持ってもらいます。

そして、ゴミを出さない工夫や方法をもう少し深く考えます。リサイクルする、モノを大切に、水筒を使う、などの様々な意見が出ました。